

地域と連携した森林官ハンターの取り組み

留萌南部森林管理署 首席森林官（古丹別、奥古丹） 小川 翼

取組の背景・目的

道内におけるエゾシカの推定生息数は、国・道・市町村による様々な対策により着実に減少しており、農林業被害についても電気柵の普及や計画的な個体管理等により減少傾向となるなど一定の成果を挙げています。

一方、エゾシカの行動範囲に変化が生じており、**昼夜を問わず市街地に出没**し、人間を恐れないことから**交通事故や人的被害も危惧**されています。留萌地域においても、**頻繁に市街地や国道等にエゾシカが出没**しており、この10年間でエゾシカとの交通事故が3倍以上に増加しています。

このような中で、今春、**エゾシカが防風林に棲み着いているとの情報**を得て現地を調査したところ、複数のエゾシカの常駐を確認することができました。しかしながら、当該防風林が市街地や道路から近いなど**銃猟による有害鳥獣駆除が困難な場所であり、具体的な駆除手法も含めて慎重に検討する必要がある**が生じました。

このため、**国有林を管理する森林官であり、かつ、猟友会に所属するハンター**として、職務や銃猟による自身の経験や体験、猟友会ネットワーク等を活用して、現在、取り組んでいる対策について紹介します。



市街地に遊々とたたくエゾシカの群れ

取組の内容

【防風林内のエゾシカ対策】

- ・エゾシカの動向把握
役場や地域住民等からの聞き取り（情報収集）
自動撮影カメラの設置
- ・銃猟による可能性の検討
防風林内のバックストップ箇所の調査
バックストップがある場所への誘因手法の検討
- ・銃猟以外の駆除手法の情報収集
夜間でも駆除が可能なくくりわな、箱わな、誘引式
首用くくりわな（静岡県）等の活用など
「止めさし」手法の検討（ハンターとの連携）

【若手ハンターの育成】

- ・猟友会会員の高齢化が懸念されている一方、若手ハンターも僅かながら増加。
- ・経験の少ないハンターに安全で効率の良い銃猟方法や解体手法等を指導。



役場職員と防風林周辺を調査



銃猟によるエゾシカ駆除



若手への解体処理の指導

今後の展開

防風林のエゾシカ捕獲に向け、**季節毎のエゾシカ動向**の把握とともに、引き続き、**自治体、猟友会、地域住民等からの情報収集や意見聴取**を実施し、有効な駆除手法を導き出します。

また、**若手ハンターの育成**にもこれまで以上に携わり、地域から信頼され、かつ、愛される森林官ハンターを目指します。



昔はいなかった若手女性ハンター